

I. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

894年に遣唐使が廃止され、日本と中国王朝との正式な国交が途絶えた。しかし宋が興ると僧侶の渡海や貴族の名義による船団の派遣も増加し、頻繁な私貿易によりその交流が途絶えることはなかった。983年、九州から中国商人の船に乗って宋へ渡った東大寺の僧 (1) (2) は仏教の聖地を巡礼することが目的であったが、半ば公的な使節として太宗に謁見し日本の国情を伝えた。

鳥羽上皇の信任を得て昇進を重ねた (3) (4) は肥前国神埼荘を拠点に日宋貿易を行い、その子清盛も摂津国の (a) を修築し南宋との交易を積極的に行った。中国大陸からはさまざまな品物とともに宋で鑄造された貨幣が大量にもたらされ、日本国内で流通して貨幣経済の進展を促す一因となった。またこの交易では日本からさまざまなものを輸出したが、重要なものとして (5) (6) があった。これは後にマルコ＝ポーロが述べた日本のイメージに繋がってゆく。鎌倉幕府も宋・元とは正式な国交を結ばず、従来どおり貿易や僧侶の往来などによって中国大陸との交流を続けた。 (7) (8) が伝えた臨済宗は幕府の保護を受けて隆盛となり、執権北条時頼は南宋から渡来した臨済僧 (9) (10) を招いて建長寺を建立した。

金を滅ぼして中国を統一しつつあった元は日本に朝貢を求めた。元の皇帝 (11) (12) の国書に対して返書だけは送ろうという動きもあったが、執権 (13) (14) はこれを拒否し国書を黙殺した。元は高麗南部で抵抗を続けていた (b) の乱を鎮圧すると、1274年ついに日本へと派兵する。幕府が動員した武士たちは苦戦したが、損害を被った元軍は高麗へと撤兵した。これを (15) (16) と呼ぶ。南宋を滅ぼした元は1281年再度日本へ派兵する。しかし幕府は九州北部の要地を御家人に警備させる (17) (18) を設け、博多湾沿岸には (19) (20) を建設するなどして準備をしていた。日本軍の奮戦に足止めされた元軍は暴風雨により壊滅的な被害を受けて撤退した。これを (21) (22) と呼ぶ。

二度の派兵により両国関係は緊張したものとなったが、民間の貿易と交流は大きな影響を受けることなく、人と物の往来が続いた。鎌倉時代末期からは密貿易や略奪を行う (c) が朝鮮半島や中国沿岸を襲い大きな被害をもたらした。明は建国早々からその被害を認識しており、当時九州で勢力を持っていた南朝の皇子 (23) (24) に国書を送ってその鎮圧を要求している。室町幕府は鎌倉幕府同様に (ア) 寺院の建立費用を得るために貿易船を派遣し、 (25) (26) は1401年に国書を正使 (27) (28) らに託して明に送り、正式な国交を結んだ。ただしこれは明王朝に臣従して冊封体制に入るものであり、日本国王名義で派遣される正式な貿易の証として明から (d) が発給された。 (25) (26) による九州制圧や日明貿易の開始により (c) はいったん沈静化に向かった。

(イ) この貿易は (29) (30) により中断されたが、後に将軍 (31) (32) により復活した。 (33) (34) を契機として幕府の権力が低下すると貿易の実権は守護大名の手に渡り、さらには1523年に貿易の主導権をめぐる明の海港都市 (e) で守護大名の勢力が争うという事件まで起こった。日本が冊封体制下で行った正式な貿易は、 (d) を保持していた (35) (36) 氏の滅亡により廃絶した。

問1 文中の空欄 (1) (2) ～ (35) (36) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 足利直義	12 足利義教	13 足利義尚	14 足利義視	15 足利義満
16 足利義持	17 異国警固番役	18 石築地	19 一山一寧	20 栄西
21 円珍	22 円仁	23 大内	24 応永の外寇	25 応永の乱
26 応仁の乱	27 オゴタイ=ハーン	28 鎌倉番役	29 懐良親王	30 九州探題
31 金	32 銀	33 慶長の役	34 弘安の役	35 香料
36 虎関師鍊	37 後三年の役	38 防人	39 成尋	40 親鸞
41 祖阿	42 外曲輪	43 平重盛	44 平忠盛	45 平正盛
46 平宗盛	47 田中勝介	48 俵物	49 裔然	50 勅令
51 チンギス=ハーン	52 道元	53 日蓮	54 畠山	55 フビライ=ハーン
56 文永の役	57 文禄の役	58 北条時房	59 北条時政	60 北条時宗
61 北条時行	62 細川	63 本丸	64 水城	65 無学祖元
66 護良親王	67 モンケ=ハーン	68 山名	69 蘭溪道隆	

問2 文中の空欄（ a ）～（ e ）に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

（1）下線部（ア）について、後醍醐天皇の冥福を祈るために寺院の建立を計画し、この資金調達のために派遣した貿易船を何というか、漢字で書きなさい。

（2）下線部（イ）について、(29) … (30)がこの貿易を中止した理由を15字以内で説明しなさい。

II. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

1603年、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は征夷大將軍の宣下を受け、江戸に幕府を開いた。その後、大坂の役で豊臣氏が滅亡すると、1615年には諸大名の統制のために武家諸法度と（ a ）が制定された。大名に対する根本法典である前者は、以後、將軍の代がわりごとに発せられることとなり、有名な参勤交代の義務は（37）（38）令で定められた。さらに幕府の支配は朝廷や宗教にも及んだ。朝廷に対しては（39）（40）などがその監視にあたり、宗教に関しては、とくにキリスト教と（41）（42）が弾圧の対象となった。このような情勢下において（43）（44）年に起きた島原の乱は、幕府や諸大名のキリスト教への警戒心を強めさせる一因となり、幕府はこの反乱の鎮圧後、ポルトガル船の来航を禁止したりオランダ商館を（45）（46）に移したりして、海外との交流の統制強化を図った。こうして(ア)いわゆる鎖国の状態が作り上げられていった。

幕藩体制と新たな外交秩序の確立によって、戦国以来の乱世は終わりを迎えようとしていたが、むろん社会不安の種がすべて取り除かれたわけではなかった。たとえば幕府機構が整備されていく過程では、大名の改易や減封によって封禄を失った牢人が大量に発生した。幕府は末期養子の禁を緩めるなどして牢人の増加を防ぐとともに、儒教道徳を重視する（47）（48）の理念を推し進め、秩序の安定を図った。1683年、（49）（50）が將軍代がわりに際して武家諸法度の第1条を「（51）（52）を励し、礼儀を正すべき事」と改め、孔子をまつる（53）（54）を建てたのもこの一環である。その一方で、江戸時代はつねに災害の脅威と隣り合わせの時代でもあった。1657年に江戸で10万人を超える死者を出した（55）（56）を機に、翌年には（57）（58）が創設された。また、1782年に始まる（59）（60）は、全国各地で大規模な一揆や打ちこわしを誘発し、幕府に大きな衝撃を与えた。このとき幕政改革に乗り出した松平定信は、1790年、江戸に流入してきた農民の帰村を促す（ b ）を發布したほか、災害時の貧民救済などに充てるため、（61）（62）の制度を整えた。

こうしたさまざまな脅威に晒されながらも約270年にわたって単一の政権が安定的に存続しえた江戸時代は、経済や文化・学問の飛躍的な発展ももたらした。経済に関しては諸産業の発達に加え、とりわけ交通・通信網の発達がめざましく、陸上交通では、江戸を起点とする幹線道路として(イ)五街道が整備され、幕府公用の（63）（64）などが書状や小貨物の運送にあたった。海上交通では、江戸の商人（ c ）によって東廻り・西廻り海運のルートが整備されたほか、17世紀前半に大坂・江戸間で運航が始まった（65）（66）は、のちにより迅速な荷積み・運航を可能にする（67）（68）によって圧倒された。さらに、こうした流通の発展は人々の精神的な活動をも刺激し、(ウ)学問の分野では、朱子学から洋学にいたるまで多様な思想が展開した。また、当初は上方の町人を主な読者層とし、井原西鶴に代表される享樂的な内容の（69）（70）が中心だった文学は、寺子屋や貸本屋の普及などによって、しだいに広く民衆のものとなっていった。上述の定信の改革で弾圧の対象となった、遊里を描く（71）（72）などの流行を経て、文化・文政期には、庶民の生活を会話中心に描いた式亭三馬らの滑稽本や、恋愛ものを扱った為永春水らの（73）（74）など、文芸の多彩な潮流が生まれた。

このように、各地で活発な経済・文化的活動が営まれる一方、中央の幕府はたびたび財政難に直面し、その対応に迫られた。この点において、約1世紀の時を隔てた徳川吉宗と水野忠邦による幕政改革は実に対照的である。商人の力を借りて新田開発を進め、年貢の安定と増徴を図って（75）（76）を広く導入した吉宗が財政再建に一定の見通しを立てたのに対し、物価騰貴抑制のために株仲間の解散を命じた忠邦は、

かえって商品流通の混乱と物価の高騰を招く結果となった。また、財政難で揺らいだ幕府の威信を誇示するため、両改革期にはともに諸大名を動員して (77) (78) が実施されたが、忠邦の時にはその甲斐も空しく、10年後の1853年、日本はペリーの浦賀沖来航とともに幕末の動乱を迎えることとなった。

問1 文中の空欄 (37) (38) ～ (77) (78) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

11 1617	12 1627	13 1637	14 異国船打払令	15 浮世草子
16 黄檗宗	17 大御所政治	18 大目付	19 御伽草子	20 陰陽道
21 懷徳堂	22 桂離宮	23 寛永	24 寛永の飢饉	25 棄捐令
26 北前船	27 京都守護職	28 京都所司代	29 享保の飢饉	30 検見法
31 元和	32 小石川養生所	33 指出検地	34 三方領知替え	35 七分積金
36 洒落本	37 上知令	38 定飛脚	39 定火消	40 定免法
41 施薬院	42 大名飛脚	43 高瀬船	44 足高の制	45 樽廻船
46 継飛脚	47 出島	48 天和	49 天保の飢饉	50 天明の飢饉
51 徳川家継	52 徳川家綱	53 徳川綱吉	54 日蓮宗不受不施派	55 日光社参
56 日光東照宮	57 人情本	58 半濟令	59 菱垣廻船	60 平戸
61 武家のならい	62 富士山の大噴火	63 武断政治	64 文治政治	65 文武弓馬の道
66 文武忠孝	67 町火消	68 明暦の大火	69 明和の大火	70 湯島聖堂

問2 文中の空欄 (a) ～ (c) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 以下の設問の解答を解答用紙 B の所定の解答欄に書きなさい。

- (1) 下線部 (ア) について、鎖国の状態においてなお異国・異民族との交流のために開放されていた4つの対外的な窓口とは、長崎・対馬・薩摩のほかにはどこか、漢字で書きなさい。
- (2) 下線部 (イ) について、五街道の中で最多の宿場数 (67宿) と第二の規模の常備人馬数 (各宿駅に原則50人・50疋) を誇る幹線道路の名前を漢字で書きなさい。
- (3) 下線部 (ウ) について、次の (あ) ～ (え) の内容を正しい年代順に並び替え、その記号を順に書きなさい。
 - (あ) 本居宣長が『古事記伝』を著し、「漢心 (漢意)」を排する思想を展開した。
 - (い) 藤原惺窩に師事した林羅山が、家塾弘文館を開いた。
 - (う) 孔子・孟子の古典に立ち返る古学派の流れを受けた荻生徂徠が、経世論に道を開いた。
 - (え) 渡辺崋山が『慎機論』を著し、幕府の政策を批判した。

Ⅲ. 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。

1937年7月に北京郊外で発生した (79) (80) をきっかけとして始まった (81) (82) 戦争が拡大するにつれて日本国内の物資や労働力は不足し、政府は国家の総力を戦争に集中する必要に迫られた。1938年には (a) 法が制定され、勅令により (83) (84) の承認なしに戦争遂行に必要な物資や労働力を動員することが可能となった。この法律に基づき、(85) (86) が立案した物資動員計画によって軍需品生産が優先されるようになると、国民の生活に必要な物資の不足が進んだ。1939年、政府は物価上昇と物資不足に対応するため (b) 令を出して公定価格制を導入した。また、1940年には砂糖・マッチなどの消費を制限するため、一人当たり一年間に使用できる総点数を決め、品目ごとに定められた点数の (87) (88) を渡さないと商品が購入できない (87) (88) 制が実施されるなど日用品の統制が強められていった。食糧不足への対応として、政府の統制は農業にも及んだ。1940年に政府が農家から米を強制的に買い上げる (89) (90) 制が実施され、1941年には消費を制限するために米が (91) (92) 制となった。さらに1942年には政府が米などの主要穀物の生産者からの買い取り価格と国民への販売価格を決め、食糧管理制度による統制が強化されていった。

1945年の太平洋戦争終結後も、敗戦という状況の下で日本は深刻な物価上昇と食糧難にみまわれ、(93) (94) 資金による緊急食糧輸入が実施されたほか、農産物流通の統制も継続されることになった。また、GHQは、(95) (96) 制が (97) (98) の窮乏を招いたことが軍国主義を支えた原因の一つであったと考え、農地改革の実施を求めた。東久邇宮内閣の後を受けた (99) (100) 内閣はGHQの要求に先立って第一次農地改革案を閣議決定し、改革実施に向けて1945年に農地調整法を改正した。しかし、この内容を不十分とするGHQの勧告により、1946年10月に第一次 (101) (102) 内閣が再改正した農地調整法と (c) 法を公布し、いわゆる第二次農地改革が進められた。この政策により小規模な農家が大幅に増えることになった。

1950年代半ばまでに日本の食糧不足はほぼ解消し、高度成長期の農業では、土地基盤整備事業、農法や品種改良の発達、化学肥料や農薬、農業機械の利用が広がって急速な生産性の上昇がみられた。1961年には (d) 法が制定され、機械化の推進と経営規模拡大による生産性の向上、米作中心の農業から畜産・果樹・野菜など需要の拡大が見込まれる分野への選択的拡大によって他部門との所得格差を是正することが政策目標とされた。

しかし、米は国内自給によって賄うことが原則とされ、食糧不足が解消した後も米作農家の経営安定策として食糧管理制度による米価維持政策が存続した。このために米の作付面積は減少せず、小規模農家の多くがそのまま残った。政府が意図した農業経営の規模拡大は十分進まなかったのである。1960年代後半、農家所得は勤労者世帯と同程度の水準まで上昇したものの、所得の上昇はもっぱら (103) (104) 農家の増加による農業以外の所得の上昇によるところが大きかったという指摘もある。

ところで、1960年代の日本は、貿易と資本を自由化することによって先進国として世界経済に加わることを目指していた。1963年、日本は (105) (106) 11条国となった。また1964年には国際収支上の理由で為替管理ができない (あ) 8条国となったほか、資本の自由化を義務付けられる (い) にも加盟した。しかし、その後の日本は、農産物について、国際収支上の理由で (う) を行わないという (105) (106) 11条国が従うべきルールを守っていないという批判を諸外国から受けることになったのである。

また、1960年代には食生活の変化によって米の需要も減少に転じ、過剰生産が問題になった。このため、1970年代に入ると米の過剰生産対策として (107) (108) 政策が進められた。しかし、米価維持政策の財政負担は増加を続け、(109) (110) 政権の行財政改革の一環として1987年に分割民営化された (e)・国民健康保険・米はそれぞれの頭文字にちなんで「3K 赤字」と呼ばれることになった。財政負担が問題視されながらも、食糧管理制度は、1993年の米不足によって米が緊急輸入されたこと、そして非自民8党派の連立によって成立した (111) (112) 内閣が (105) (106) の多角的貿易交渉において国内米市場の部分開放に合意したことをきっかけに政策方針が転換するまで継続されたのである。

問1 文中の空欄 (79) (80) ~ (111) (112) に当てはまる最も適切な語句を下の語群より選び、その番号を解答用紙 A (マークシート) の所定の解答欄にマークしなさい。

《語群》

- | | | | | |
|---------|-----------|----------|---------|-----------|
| 11 GATT | 12 G5 | 13 TPP | 14 WTO | 15 芦田 |
| 16 大平 | 17 片山 | 18 ガリオア | 19 カルテル | 20 議会 |
| 21 企画院 | 22 寄生地主 | 23 切手 | 24 切符 | 25 供出 |
| 26 勤労働員 | 27 経済安定本部 | 28 兼業 | 29 減反 | 30 豪農 |
| 31 小作農 | 32 最高裁判所 | 33 山林地主 | 34 自作農 | 35 指定産地 |
| 36 幣原 | 37 シャウプ | 38 首相 | 39 招集 | 40 西安事件 |
| 41 専業 | 42 全量検査 | 43 大政翼賛会 | 44 代用食 | 45 竹下 |
| 46 田中 | 47 地方自治体 | 48 朝鮮 | 49 徴発 | 50 ドッジ |
| 51 内閣 | 52 中曽根 | 53 日露 | 54 日中 | 55 農業協同組合 |
| 56 配給 | 57 羽田 | 58 細川 | 59 宮沢 | 60 村山 |
| 61 吉田 | 62 陸軍 | 63 柳条湖事件 | 64 ロイヤル | 65 盧溝橋事件 |

問2 文中の空欄 (a) ~ (e) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に漢字で書きなさい。

問3 文中の空欄 (あ) ~ (う) に入る最も適切な語句を解答用紙 B の所定の解答欄に、(あ) はアルファベット 3 文字、(い) はアルファベット 4 文字、(う) は漢字 4 文字で書きなさい。